

～森の民話茶屋運営委員会～

森の民話茶屋通信

Vol.20

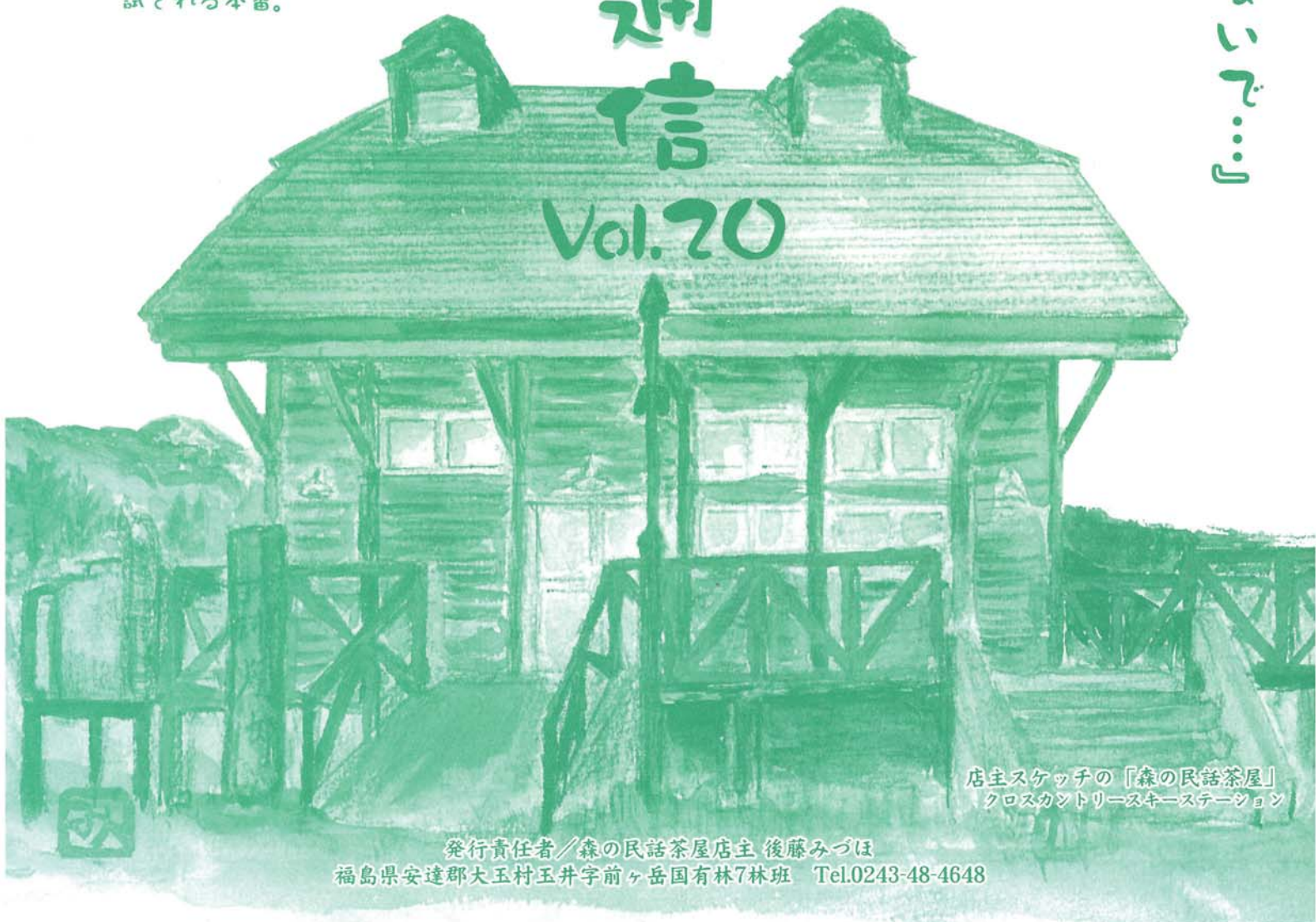
『ふるさとの民話とふるさとの森をつないで…』



7ヵ月にわたり練習してきた成果が試される本番。



森の民話茶屋お膳の試食をされる小泉先生。お褒めの言葉を頂きました。



店主スケッチの「森の民話茶屋」
クロスカントリースキーステーション

発行責任者／森の民話茶屋店主 後藤みづほ
福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ岳国有林7林班 Tel.0243-48-4648

内閣府 男女共同参画局 「女性が参画した地域づくり」委嘱 十九年度

森の民話茶屋「民話で育む」のすど。事業」を展開しました。

内閣府 男女共同参画局が進める女性の地域づくりを応援する事業(全国2箇所)の委嘱を受けて、森の民話茶屋は様々な事業を展開しました。「民話で育む」のちと心「事業」と名称を決め、地産地消、食育食農の体験「そば打ちと団子汁づくり」や「農村の伝統食と食文化講演会」で、「いのち」を考え、地域文化伝承の「民話の講演会」や「子ども民話祭」「本の出版」で心「を育てる事業を計画し、八月から実施してきました。

内閣府のこの事業は、女性の力をもっと住みよい地域づくりに活かそうと平成十七年度から始まった事業です。女性が参画して立ち上げた全国の事例の中から二箇所を選び、その事業の目的、活動内容や成果をDVDに収め、全国の自治体やセンターに情報を発信することにより、各地の女性、そして行政を応援しようとするものです。

私たち森の民話茶屋では、選んで頂いたことを励みにして一層茶屋が愛される茶屋になることを願って、この事業を引き受けることにしました。勿論、この事業の条件には、行政との協力関係、男女共同参画条例(宣言)を有しているかどうかも含まれています。日頃からのご支援と理解があつてこそ、計画から実施まで何とか無事終えることができたのだと感謝をしながら、事業の様子をお知らせしたいと思います。

基本計画の提出から村に正式に委嘱の通知があつたのが、七月末でした。早速、メンバーの方々との打ち合わせ、村長さんを初め担当する課長さん方々と何度となく会議を開き実施しました。

「民話で育む」のすど。事業プラン」

8月28日

講演会とワークショップ「今に生きる民話」
講師／仙台市民話研究家、小野和子先生

11月23日

親子体験事業「そば打ちと団子汁づくり」
講師／「じんだら会」会長さんと7名の方々

12月13日

講演会「農村の伝統食と食文化」
講師／東京農業大学教授 小泉武夫先生

1月20日

「みんなで楽しむ子ども民話祭」

11月3月

民話の本出版「茅刈り狐」



8/28

「今に生きる民話」

講演とワークショップ

仙台市民話研究家 小野 和子先生



前日から東京のテレビ朝日映像の二名が、当日は五名のスタッフが加わって「森の民話茶屋」の様子や成り立ちを、そして最初の事業である講演会とワークショップの様子を取材、撮影しました。地元の福島放送のテレビカメラも取材。事業全体のアドバイザーをお願いした小野先生が茶屋に到着する様子から、お膳作りの様子の撮影。狭い店内はカメラと人でギューギュウ詰め。

その後、講演会とワークショップはアットホームなおたまの大広間に移して実施。小野先生は森の民話茶屋へは初めての来店。水の美味しさと個性豊かなメンバーに「人間ていいねえ」「素敵な仲間ねえ」と感想を頂きましたが、私たちは先生の深い心を持って民話に向き合っていたら、さういふ姿にすっかり感動しました。

村や郡山、旧安達郡内から参加して下さった方に茶屋のメンバー合せて六十名で、意義ある事業となりました。読み聞かせグループ、図書ボランティアの方々からも感動と感謝の声を頂きました。民話の品格を学びました。

後日、小野先生からお手紙が届きました。女性を応援する国の事業に選ばれたことについて先生は、「珠玉の活動が日々



つつましく続けられ、それに陽が当たったこと、嬉しいですね。どうか灯を消さないで歩きつづけて下さいませ。」と綴ってありました。

長い間、民話の研究を続けて来られて(村の図書館にも先生の作品がある)、言葉を大切にしていられ、先生のお手紙は私たちの心にしみ入りました。

11/23

ファミリー体験事業(粉の文化)

「そば打ちと団子汁作り」

前日の雪で心配しながらも、当日はなんとか雪が止みました。

参加者は、みなさんのご協力で村内の他、郡山や二本松市からも含めて年齢も様々に三十八名が集まりました。

この日の撮影は東京から一名がいらっしやって、大玉村直売所まで参加者全員バスで食材を揃えるという地産地消そのものの様子からの撮影となりました。



早速、農林産物加工場にてそば打ち体験。指導は「じんだら会」の方々です。森の民話茶屋では「団子汁」の準備が始まりました。すべて時間通りに進みました。

打ち立て、茹でたての蕎麦に親子で舌鼓。温かい団子汁にほっとして、参加者一同心から満足していただけたようです。

地元の食材を使用することが安心、安全を確認でき、心と身体の栄養素になるです。

テレビ朝日映像のディレクターさんは、「大玉村って凄い!」「人の力、自然の力に圧倒される」との感想を下さいました。

後日、参加された方から嬉しいお礼のお葉書・お手紙と写真を頂きました。

12/13

講演会「農村の伝統食と食文化」

東京農業大学教授 小泉 武夫 先生



今、テレビやマスコミで大人気の小泉武夫先生を迎えて、食育食農と地域づくりの講演会を開きました。会場の都合で限定120

名の方々に整理券を配付しました。

当日は、役場の方々の配慮で別室にも生中継され、会場に入れなかった方から感謝されました。

先生はご承知の通り、福島県小野町のご出身で、味噌のCMで菅原文太さんとも共演しています。N

HKを初めとする各局のトーク番組でもお馴染みの先生で、超多忙であることは伝説となっていますが、世間知らずの私たちの強引なお願いが功を奏し、この日なんと、講演が決定したのでした。

先生は大玉村にいらしたのが初めてとのこと、**「四号線からちょっと入った所にこんな素晴らしい村があったのか」と驚かれていらっしゃいました。**



講演はユーモアに溢れてエネルギーに食の安全、日本の伝統食の意義と全国の農の地域づくりを広い視野で熱く語って下さいました。聴講の後、ある方から、先生のお話の中にあつた「あけびと山ぶどうのなれ寿司」を是非作りたいというお声がありました。



先生からいただいたお葉書には「春の大玉村に是非伺いたい」とありました。その機会が作れると良いですね。

1/20

みんなで楽しむ「子ども民話祭」

今回の事業の最後を飾って、民話を次世代へ伝承するため「子ども民話祭」を開催しました。

当日は内閣府からも担当者の方がお出でになり、撮影のスタッフは前日から五名が入りました。

アドバイザの小野和子先生をも再びお迎えしてご指導いただき、会場のふろさとホールには温かい時間が流れました。

二ヶ月間、民話の語りを学んでくれた玉





井小から五人、大山小から一人、大玉中から一人の計七人が、大勢のお客さまとカメラの前で堂々と語りました。
森の民話茶屋のメンバーの出番も作り、久しぶりに「子守り泥棒」なども上演しました。
 小野先生からは一人ひとりに優しい講評があり、民話の奥深い根っこの部分のお話しもいただきました。先祖の暮らし、汗や涙や喜びがゆっくりと煮詰められた一滴が民話であることを再度学ぶことが出来ました。
 ふるさとホールに子どもたちの語る民話が響き、建物の持つ意味が一層味わえる空間になりました。東京の撮影スタッフも「良い絵が撮れました」と感動していました。



大人向けの民話の本が出来ました!
 心が温かくなる話、背筋がスッと寒くなる話。活字とCDの両方で民話が楽しめます!

事業を終えて

思いもよらなかった国の事業でしたが、メンバー一同、心を一つにして何とか無事計画通りに終えることが出来ました。
森の民話茶屋の営業と平行して、事業の段取りや会議をしながら実施していくのは、少々大変ではありましたが、行政や地域の皆さんの大きなご支援と家族の方々のご協力を頂き、予定した事業の全てを終えることが出来ました。

内容を詰め込み過ぎたようにも反省しておりますが、それも貧乏性の女性たちの事業だとお許し頂きたいと思っています。

事業を通して、女性の持つ感性や力を地域づくりに活かすことの大切さを全国に発信出来たのではないかと小さい達成感を持ち安堵しているところです。しかし、まだ事業の様子を記録したDVDを見ていない段階ですので、それが上手く伝わっているかどうか不安ではありますが…。

尚、出来上がったDVDをご希望の方、先着50名様に無料でお分けしたいと存じますので、お申込み下さい。

【お申込み】森の民話茶屋に直接、又はFAXのみの受付

FAX/0243(48)4648

絶対失敗しない『かんたん黒豆煮』

【材料】

- 黒豆…5合
- 砂糖…500g~600g
- 水…12カップ(180cc×12)
- 塩…大さじ1/2
- タンサン…大さじ2
- しょう油…大さじ1

【作り方】

- ①上記の材料を煮立て、黒豆を入れて一晩置く。
- ②翌日落とし蓋をして、弱火でやわらかくなるまで煮る。

JA女性部で学んだものを、
 森の民話茶屋の福内ハルイさんが
 教えてくれました。

二年続き嬉しい最後のお客さまは ハーレーダビッドソン(埼玉県)のみなさんでした。



とりわけ忙しかった十九年度の営業も十一月二十四日が最後となり、この日のご予約は、昨年に引き続き埼玉県のハーレーダビッドソンの方々のご来店でした。今年は総勢十五台。駐車場を埋め尽くすハーレーは正に圧巻でした！

昨年は相馬市に一泊してからのご来店でしたが、なんと今回はわざわざ森の民話茶屋を目指しておいで下さったとかで、本当に嬉しい限りでした。

一行は予定より一時間早く到着！お膳の準備真つ最中だったメンバーは少々

の砂糖煮と熱いコーヒーで一休みして頂き、すっかり身内同士のように入り込んで下さいました。

出来上がった森の民話茶屋お膳に感嘆の声。食後には一階のテーブルを全員で囲んで民話を楽しみました。

そして、つきたてのまだ柔らかいお餅をお土産に、昨年写真を撮る余裕が無かった分、カメラに皆さんの雄姿を収めて、お見送りしました。

この会の会長さんが旅行会社を経営していらっしゃるから、何組もの団体のお客さまを紹介して頂いています。いつも真心でおもてなしをすることで、また素敵な出会いが巡ってくるのですね。



森の民話茶屋からの届け物 茅刈り狐

絵 すげの でんじゅ / 文・編集 森の民話茶屋
CD付き 定価 1,400円(税込)

大人のための民話の本です。
ふるさと、人、自然への
温かい眼差しの本を出版しました。

お問い合わせ・お申込み
森の民話茶屋 電話0243(48)4648

MAP

